

財政状況等一覧表（平成22年度決算）

(単位:百万円)

団体名 売木村

標準収入額等 A	普通交付税額 B	臨時財政対策 債発行可能額 C	標準財政規模 A+B+C
90	586	56	732

1. 一般会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
一般会計	1,240	1,174	66	41	3	1,040	
一般会計等	1,240	1,174	66	41		1,040	

※「一般会計等」の数値は、各会計間の繰入・繰出などを控除(純計)したものであることから、各会計間の合計額と一致しない項目がある。

2. 公営企業会計等の財政状況

(単位:百万円)

会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
国民健康保険特別会計 (国民健康保険事業)	176	165	11	11	28	15		
(診療施設事業)	105	96	9	9	7			
簡易水道特別会計	71	69	2	2	21	15		
下水道事業特別会計	91	91	0	0	74	612	514	
老人保健特別会計	47	47	0	0	28	306	286	
後期高齢者医療特別会計	0	0	0	0				
介護保険特別会計 (介護サービス事業勘定)	6	6	0	0	3			
(介護サービス事業勘定)	132	125	7	7	16			
公営企業会計等 計	96	91	5	5	16			
	36	34	2	2	0			
公営企業会計等 計				18		933	800	

(注) 1. 法適用企業とは、地方公営企業法の全部又は一部を適用する公営企業である。
2. 法適用企業会計以外の特別会計については「総収益」「総費用」「純損益」の欄に、それぞれ「歳入」「歳出」「形式収支」を表示している。
3. 「資金剰余額/不足額(実質収支)」は、地方公共団体財政健全化法に基づきものであり、資金不足額がある場合には負数(△-)で表示している。
4. 「左のうち一般会計等繰入見込額」は、企業債(地方債)現在高のうち将来負担比率に算入される部分の金額である。

3. 関係する一部事務組合等の財政状況

(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額/不足額 (実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	備考
南信州広域連合 (一般会計)					138			
(ふるさと市町村基金(拠出分)特別会計)					62	1,948	21	
(飯田広域消防特別会計)					7			
(阿南学園特別会計)					32			
下伊那南部総合事務組合					37			
長野県後期高齢者医療広域連合 (一般会計)					7	205	8	
(後期高齢者医療事業会計)					4,723			
下伊那郡町村公平委員会組合					86			
下伊那自治センター組合					4,637			
南信地域町村交通災害共済事務組合					0			
下伊那郡土木技術センター組合					6			
長野県市町村自治振興組合					20			
長野県市町村総合事務組合 (一般会計)					4			
(非常勤職員公務災害補償特別会計)					49			
一部事務組合等 計				4,947		2,153	29	

4. 地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況

(単位:百万円)

地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
◎◎土地開発公社									
★★道路公社									
◇◇財団									
...									
地方公社・第三セクター等 計									

(注) 損益計算書を作成していない社団・財団法人は「経常損益」の欄には当期正味財産増減額を表示している。

5. 充当可能基金の状況

(単位:百万円)

充当可能基金名	平成21年度 決算 A	平成22年度 決算 B	差引 B-A
財政調整基金	151	239	88
減債基金	138	169	31
その他充当可能基金	244	264	20
充当可能基金 計	533	672	139

(注) 「充当可能基金」とは、基金のうち地方債の償還等に充当可能な現金、預金、国債、地方債等の合計額をいい、貸付金及び不動産等を含まない。

6. 財政指標の状況

財政指標名	平成21年度 決算 A	平成22年度 決算 B	差引 B-A	早期健全化 基準	財政再生 基準	資金不足比率 (公営企業会計名)	平成20年度 決算 A	平成21年度 決算 B	差引 B-A
実質赤字比率	5.64	5.53	△ 0.11	△ 15.00	△ 20.00	簡易水道特別会計	-	-	0.00
連結実質赤字比率	7.76	8.11	0.35	△ 20.00	△ 40.00	下水道事業特別会計	-	-	0.00
実質公債費比率	17.4	15.7	△ 1.7	25.0	35.0				
将来負担比率	71.4	14.6	△ 56.8	350.0					
財政力指数	0.12	0.11	△ 0.0						
経常収支比率	71.5	72.9	1.4						

(注) 1. 「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「資金不足比率」は負数(△-)で表示している。
2. 「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」は、収支が黒字の場合には便宜的に当該黒字の比率を正数で表示している。
3. 早期健全化基準に相当する「資金不足比率」の「経営健全化基準」は、公営競技を除き、一律 △20%である(公営競技は0%)。

4. 「早期健全化基準」及び「財政再生基準」は平成21年度決算における基準である。